

第5章 環境行動計画を作成しよう！

本章では、環境行動計画に盛り込むべき内容について説明します。第3・4章のチェックの結果をもとに、本章の説明にそって環境行動計画を作成してください。

その際、各学校の実情に応じて独自に踏み込んだ内容を記述したり、より分かりやすい記述にするなど、環境行動計画をよりよいものにしていく工夫をすることが期待されます。

(1) 学校の概要

行動計画には、以下の内容を簡潔に記述してください。

学校名及び代表者名
所在地
環境関係の責任者及び担当者連絡先
学校の規模（児童・生徒数、教職員数、クラス数、敷地面積、校舎延べ床面積など）

(2) 環境負荷の現状

環境への負荷の現状を記述します。第3章で把握した結果を記述してください。

負荷量等を経年的に把握している場合には、それらを用いて対前年度比や経年的な増減の状況を分かりやすく示してください。また、環境負荷の総量を記述するだけでなく、教職員、児童・生徒一人あたり、クラスあたりなどの指標を用いて評価するなどの工夫をしてください。

(3) 活動の宣言及び環境負荷低減等のための目標の設定

環境負荷の現状をもとに、学校として重点的に取り組む活動の内容を宣言してください。例えば、「電力使用量を削減します」、「グリーン購入を推進します」など第4章の取組チェックリストの項目を参考にしてください。

そして次に、具体的な環境負荷低減などのための目標を検討し記述します。

目標の設定については、「いしかわグリーンプラン(環境にやさしい石川創造計画)」(平成12年3月策定)の目標などを参考にしてください(36ページ参照)。

二酸化炭素排出量の低減に関する目標
ごみ排出量の低減に関する目標
⋮

< 例 >

二酸化炭素の排出量を 年間で現状の %削減する。

教職員、児童・生徒 1 人あたりのごみの排出量を対前年度比で %削減する。

グリーン購入の推進を図り 年度までに購入比率を %とする。

.....など

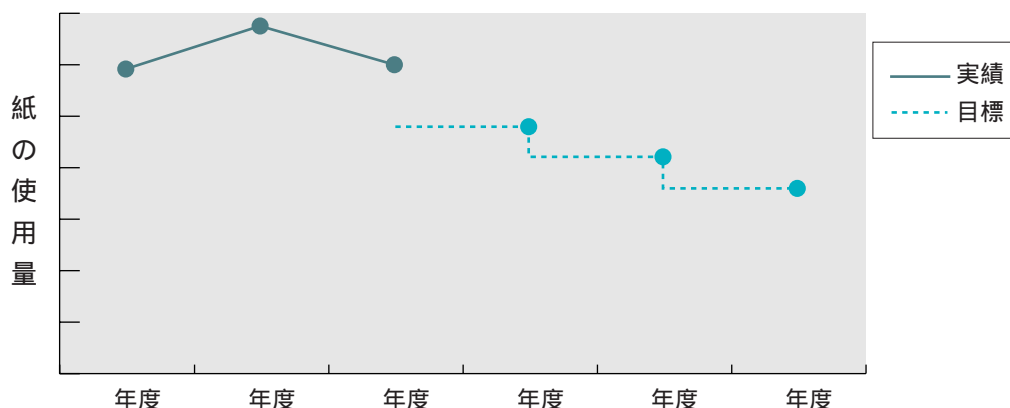
(いしかわグリーンプランにおける環境負荷低減に向けた主な目標)

- ・ごみの排出量を対前年度比で 3 %削減。
- ・エネルギー使用量を対前年度比で 2.5 %削減。
- ・文具類等の用品についてのリサイクル製品の購入率を、今後 5 年間で 90 %とする。など

(参考)

負荷の現状と目標を図などに示すとよりわかりやすいでしょう。

【 環境負荷の実績と目標の表示 (例) 】



(4) 環境保全に向けた、教職員、児童・生徒などの具体的な活動内容

第 4 章の取組チェックの結果を踏まえ、チェックリストにある個々の活動のうち今後取り組もうと考えられる項目について、どのようなスケジュールで取り組んでいくかを教職員、児童・生徒別に記述してください。

記入の仕方は任意です。例えば、取組項目別に記載しても結構ですし、環境負荷の項目ごと(例えば、二酸化炭素排出量、ごみ発生量など)に記載しても結構です。

取組項目については(3)と同様に、いしかわグリーンプランの内容を参考にするとよいでしょう。

(5) 実施体制

次章で詳しく述べることにします。

環境行動計画作成のポイント

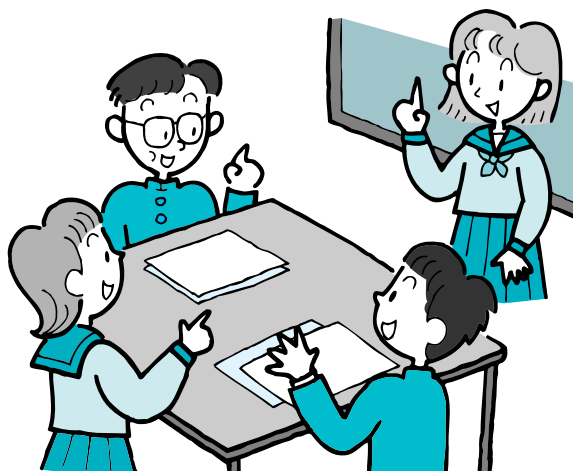
環境行動計画作成にあたっては、学校の中で適切な決定手順を踏むことが重要です。

例えば、まず本指針に基づいて環境保全活動に取り組むにあたっての取組宣言は校長先生が行います。それを受け、第2章から第4章までの説明に従って、環境への負荷と取組状況についてチェックします。そして、この調査結果をベースに、これからの取組目標や具体的な取組内容を環境行動計画にまとめます。

学校全体としての環境行動計画作成にあたっては、それぞれの学年(クラス、科等)別に全員参加で当該年度の行動計画作成します。その全ての計画を各学年(教職員を含む)の代表者からなる環境行動計画作成委員会が全校的なバランスと整合性をチェックして、最終的な環境行動計画作成する方法も考えられます。

いずれにせよ、しっかりとした意思決定のもと環境行動計画が作成され、それにそって児童・生徒及び教職員が協力し、学校全体として環境保全活動を推進していくことが重要です。

作成した環境行動計画は、PTA、地域の住民や行政などの関係者にできるだけ公表し、他の学校との情報交換や周辺住民とのコミュニケーションに活用するなど、自らの環境保全への取組姿勢の表明などに使用することも重要です。



〔環境行動計画の例〕

環境行動計画の例を以下に示します。

この例は、環境行動計画の統一的な様式を示すものではなく、あくまでも一例として、本章の記入要領にそって、必要な項目を記述したものです。実際に環境行動計画を作成するにあたっては、必要な項目が分かりやすく記述されていれば、この例に示された順序、分量、書式などにとらわれる必要はありません。また一般に分かりやすくするため、平易な文章を工夫したり、図表を用いても結構です。

市立 小学校 環境行動計画（例）

平成 年 月 日

1 学校の概要

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 学校名及び校長名 | 市立 小学校 |
| | 校長 |
| (2) 所在地 | 市 町 丁目 番号 |
| (3) 環境関係担当者連絡先 | 担当者 |
| | 連絡先 電話 F A X |
| (4) 学校の規模 | 児童数 人 |
| | 教職員数 人 |
| | クラス数 クラス |
| | 敷地面積 平方メートル |
| | 校舎延べ床面積 平方メートル |

2 環境負荷の現状

本校における二酸化炭素排出量、ごみ排出量、紙使用量及び水使用量を過去3年間にわたって調査したところ、以下の結果であった。

チェック項目		年度	年度	年度
二酸化炭素排出量	総量(kg/年)			
	児童・教職員1人あたり(kg/年)			
ごみ排出量	総量(kg/年)			
	児童・教職員1人あたり(kg/年)			
紙使用量	総量(kg/年)			
	児童・教職員1人あたり(kg/年)			
水使用量	総量(m ³ /年)			
	児童・教職員1人あたり(m ³ /年)			

3 活動の宣言及び環境負荷低減等のための目標

本校では、環境保全活動を推進するにあたり次のことを宣言する。

- ・二酸化炭素の排出量を削減します。(電力・燃料の使用量を削減します。)
- ・ごみの排出量を削減します。
- ・紙の使用量を削減します。
- ・水の使用量を削減します。

環境負荷の数値目標を以下に示す。(目標年次 年度)

環境負荷項目	総量	児童・教職員一人あたり
二酸化炭素排出量	kg	kg
ごみ排出量	kg	kg
紙使用量	kg	kg
水使用量(水道使用量)	m ³	m ³

環境教育の推進の目標

- ・各学期に1回全児童を対象とした地球温暖化やリサイクルなどの環境に関するお話を開催する。
- ・各教科の中で、環境教育を積極的に展開する。
- ・自然体験などの課外活動を積極的に実施する。

4 環境保全に向けた、児童、教職員の具体的な活動内容

二酸化炭素排出量の削減

(児童)

- ・ 教室・トイレなどの照明は、こまめに消す。

(教職員)

- ・ 教室・トイレなどの照明、OA機器のスイッチは、こまめに消す。
- ・ 空調の適温化(冷房28度程度、暖房19度程度)を徹底する。
- ・ 年までに、校内の蛍光灯をすべて最もエネルギー効率の高いものに順次交換する。
- ・ テレビ、パソコン等の買い換えの際には、最もエネルギー効率の高いものを採用する。
- ・ 毎週月曜日は自家用車での通勤を自粛する。(ノーマイカーデーの実施。)

その他、省エネナビを設置し、消費電力量の測定(代表委員会による全校へのデータのプレゼンテーションの実施)により、児童の環境意識の向上を図る。

紙使用量の削減

(教職員)

- ・ 年度中に、コピー用紙は、白色度70%の100%古紙配合の再生紙とし、複数ページの場合は、すべて両面コピーとする。
- ・ 会議資料や事務手続書類の簡素化に取り組む。
- ・ 職員室内のLANの整備など電子メディア等の利用によるペーパーレス化に取り組む。

水使用量(水道使用量)の削減

(児童)

- ・ 水道の蛇口は確実に閉める。
- ・ 掃除のぞうきんはバケツで洗う。

(教職員)

- ・ 水道の蛇口は確実に閉める。
- ・ 校内の水道蛇口すべてに節水こまを設置する。
- ・ プール・グラウンド等での水を節約する。

5 行動計画の実施体制

本校では、この環境行動計画の作成・実施・チェックが、児童の実践的な環境教育の教材であるにとらえ、児童会に環境行動計画部会を設け、児童と教職員が協力して環境保全活動を推進する。(第6章に記載の実施体制(例)を参考に作成した実施体制表を掲載)